
理科分科会

I 研究のあゆみ

4月21日(月)	2025年度名教組教研オリエンテーション (2025年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
	第1回理科分科会(同時開催)(研究の進め方・研究テーマの検討)	
4月28日(月)	発表テーマ報告・集約	
5月7日(水)	第2回理科分科会(第1次実践の計画・検討)	【飯田小】
7月下旬	第3回理科分科会 (第1次実践の振り返り、第2次実践の計画・検討、レポートの検討)	【グループ実施】
9月1日(月)	第4回理科分科会(当日に向けてリハーサル)	【飯田小】
9月20日(土)	第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

理科分科会では、小学校から13本、中学校から9本の計22本のレポートが提出された。「子どもの知りたい」という思いを引き出し、仮説を立てて探究活動ができるように教材との出会いを工夫する実践や、思いを基に子どもが自ら学習方法を考えて計画を立てる実践、より理解を深めるためにモデルの活用を行う実践などが報告された。多くの授業実践が「ナゴヤ学びのコンパス」の理念を基に、子どもが中心となって科学的探究を行うことを重視しており、子どもの思考に沿った教材提示や学習する場の工夫、ワークシートの工夫がされている。これらの実践は今後の理科授業を考える上でのきっかけや手助けとなることが期待される。

III 今後に残された課題

- 特に自由進度学習では、得意な子どもと苦手な子どもに差が生じやすい。子どもの能力に応じた適切な支援を行うことが重要である。
- 観察・実験で分かったことを適切にまとめることや妥当な考察を子どもが行うための工夫が必要である。